

日本中医薬学会シンポジウム テーマ関連シンポジウム2:

超高齢時代の多職種連携と鍼灸～三焦鍼法による未病領域・認知症への挑戦

テーマ:三焦鍼法の意義について～超高齢時代における役割と可能性～

演者:兵頭 明

三焦鍼法は健康長寿の実現、健康寿命の延伸を目的に、天津中医薬大学第1付属医院の韓景献教授を中心とする研究チームが、「三焦気化の失調と老化相関説」という仮説のもと、開発した鍼灸治療法である。

多くの高齢者は加齢とともに臓器予備能が低下し、健康な状態からフレイルの状態を経過して要支援、要介護の状態にいたると考えられている。老年症候群が人の(生理的)予備能力の低下によるものであれば、人の予備能力を東洋医学の考え方のもとづいて、しっかりとサポートすることが健康寿命の延伸、健康長寿の実現につながる(仮説)ということになる。

三焦鍼法の基本的なコンセプトは、「気」のサイドからエネルギー予備能に働きかけ、全人的・総合的な角度から健康長寿の実現、健康寿命の延伸をはかる(仮説)というものである。

『素問』上古天真論で述べている人の生命曲線の成長曲線と老化曲線を決定しているのが、体内の生理物質 X である(仮説)とするならば、この生理物質 X の生成をサポートすることは、成長発育を促したり、老化曲線を緩慢にさせたりすることができる(仮説)ということになる。そしてこの仮説にもとづく生理物質 X のサポートが、健康長寿の実現、健康寿命の延伸につながる(仮説)ということになる。

老化促進マウスを使った三焦鍼法の基礎研究では、脳年齢、骨年齢、生殖年齢の著しい延長効果が認められている。中国伝統医学では脳、骨、生殖機能は、すべて生理物質 X および「腎」の力と関係している(仮説)と考えられているので、この基礎研究の結果から三焦鍼法には生理物質 X および「腎」の力をサポートする優れた効果があることを示唆している。

本シンポジウムでは、三焦鍼法の意義、三焦鍼法を使った生活習慣病、フレイル、認知症対策の可能性について参加者と一緒に考え、その考え方を共有したい。

略歴

◇現職

1984年～現在 学校法人衛生学園中医学教育臨床支援センター センター長

1999年～現在 天津中医薬大学客員教授

2010年～現在 一般社団法人日本中医薬学会理事

2010年～現在 一般社団法人老人病研究会常務理事

◇主要業績

・2015年度、2016年度文部科学省委託事業

—成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業—

『認知症の人およびそのご家族を支えるための西洋医学系・介護福祉系・鍼灸医学系

3分野連携型モデル教材、DVD教材』の開発